

観光文化の醸成によるインバウンドのための魅力あるプロダクツの考案

国際観光学部 国際観光学科

中挟 知延子 教授 Chieko Nakabasami



研究概要

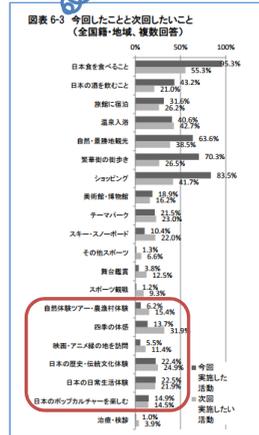
「観光文化」は従前の生活文化が、観光客の誘致を通じた観光振興によってその土地の新たな魅力と共創した文化です。インバウンドのみならず、日本人観光客も視野に入れた、伝統と現代文化を合わせた観光商品や、そこで販売する地域の特産を活かした製品を考案します。

研究シーズの内容

TOKYO2020を数年後に控え、そして「その後」まで見据えた持続可能な観光振興には、地域の企業の力が大変期待されています。日本は、伝統的な地域文化と、最新テクノロジーが共存している魅力的な文化空間を有しています。

インバウンド観光が団体旅行から個人旅行へと移行し、物見遊山の観光、買物中心の観光から、体験、交流する観光へと変化しています。訪日目的は、日本でしかできない体験や日本人との交流へと変遷しており、その体験、交流のなかでも、近年の外国人観光客は、神社仏閣巡り、宿坊への宿泊、祭や伝統行事への参加、伝統芸能の鑑賞、当地グルメの賞味、着物からサバルチャー体験など、日本人の伝統から現代に至る生活と文化に関連したものに関心を抱いています。

「観光文化」は従前の生活文化が、観光客の誘致を通じた観光振興によってインベーションが起こり、その土地の新たな、あるいは伝統と共創した文化が生み出されることもあります。新たに産み出された文化は将来時が経つにつれてその地域の伝統文化となり、持続可能な文化の創出につながります。インバウンドだけでなく、日本人観光客も視野に入れた、伝統と現代文化を合わせた観光商品及び製品デザインを考案します。



観光庁「訪日外国人の消費動向」平成 29 年 1-3 月期報告書

研究シーズの応用例・産業界へのアピールポイント

- ・地域資源をパッケージ化し、観光ニーズを呼び込み びわじャムの開発 千葉県南房総市「道の駅」国交省資料
- ・インバウンドを見据えた着地型観光調査報告書 ニューツーリズムの振興 観光庁 HP
- 特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)
- ・「インバウンド推進のための商店街の多言語サービスの動向」、中挟知延子、情報処理学会研究報告ドキュメントコミュニケーション 2016-DC-102(2)、pp.1-8、2016 年